

# 新貨物ターミナル通信



提供:沼津市

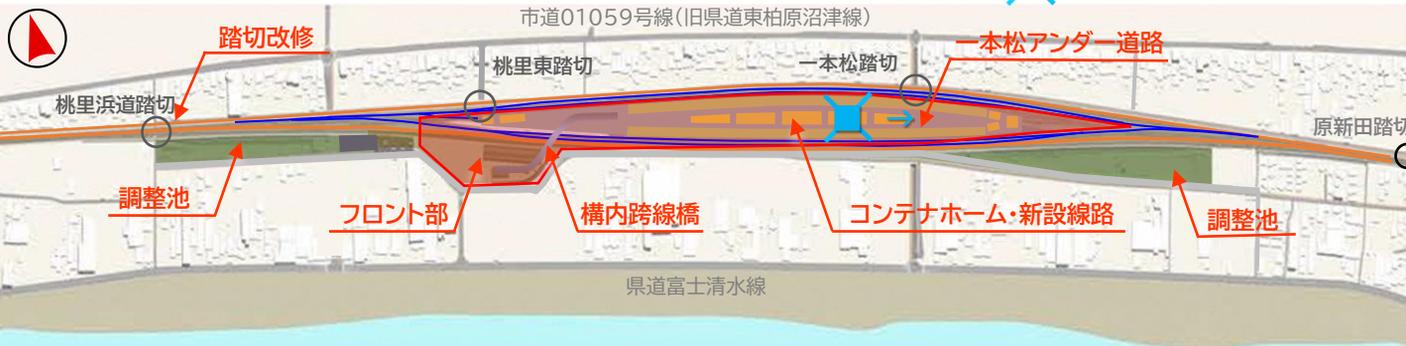
今号の一枚  
「EF210型電気機関車  
「ECO-POWER桃太郎」  
の愛称で親しまれ、  
東海道本線・山陽本線  
の高速貨物列車を中  
心に広く活躍中です。

## 本体工事 着々と進行中！

令和5年度から始まった新貨物ターミナル本体工事。令和6年度の整備予定をお知らせします。

〈令和6年度の主な整備箇所(赤字)〉(「 →」はドローン撮影位置)

市道01059号線(旧県道東柏原沼津線)



現在の整備状況(中央部から東を望む) (令和6年4月撮影)

現在は、コンテナホームやフロント部、新設する線路となる部分の基盤整備や施設内の管路埋設、構内跨線橋の橋脚工事などを各所で実施しています。また、市が一本松アンダー道路、排水路工事も併せて実施しています。

完成までの間、道路の迂回などご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。



実施中の工事の内容、施工箇所、直近2週間の工程などは、沼津土木事務所のホームページで公開しています。

沼津土木事務所HP

「新貨物ターミナル工事のお知らせ」で検索して下さい。



Facebookで  
鉄道高架事業発信中！



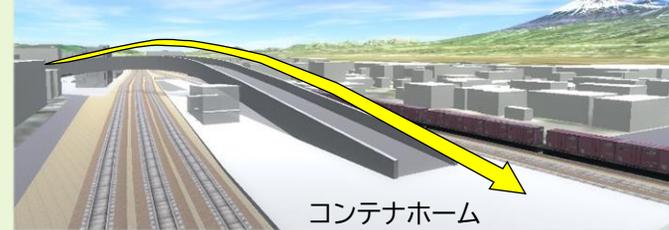
沼津のまちづくりの最新情報はこちらで▲皆さんのいいねをお待ちしています！！

## 現場レポート① ～ 構内跨線橋 橋脚部分の工事 ～

昨年10月に鉄道施設工事に本格着手した新貨物ターミナル。本通信では、現在行われている工事の内容をみなさまにお伝えするため、「現場レポート」を掲載していきます。

第1回目は構内跨線橋の橋脚工事の様子を紹介します。新貨物ターミナルで貨物列車への積卸を行うコンテナホームは東海道本線の上り線と下り線の間にできます。このため、貨物の搬入出を行うトラックなどが、フロント部からコンテナホームへ出入りするための“かけ橋”となるのが「構内跨線橋」です。

構内跨線橋の完成イメージ



現場内では、この構内跨線橋の橋脚工事が行われており、鉄筋コンクリートの構造物が並んで築造され、橋脚の骨となる部分の鉄筋が空に向かって伸びる姿を現し始めています。

完成すると全長約210m、高さ約7mに及ぶこの構内跨線橋は、橋脚工事の後に橋げたを架けるとい順序で整備を進めていきます。



構内跨線橋の橋脚工事(令和6年5月撮影)

静岡県沼津土木事務所  
都市計画課鉄道高架班

〒410-0055 沼津市高島本町1番3号  
TEL:055-920-2222 FAX:055-926-5527  
MAIL:numado-toshikei@pref.shizuoka.lg.jp

## シリーズ「鉄道貨物輸送」 ～③頻発する自然災害への対策強化～

近年、国内では地震や集中豪雨などの自然災害が頻発しており、元日の能登半島地震も記憶に新しいところです。

災害時の物流に目を向けると、能登半島地震の復興支援として、JR貨物は被災自治体への救援物資の無償輸送を実施し、発災10日後の1月11日には第1便が富山県の高岡貨物駅に到着しました。また、東日本大震災では東北の太平洋側の物流網が寸断される中、貨物列車を日本海経由で運行することで、盛岡や郡山への燃油輸送を早期に成し遂げました。さらに、長距離・大量輸送という鉄道貨物輸送の長所を活かし、建設機械から食料・飲料等の生活必需品の輸送を行い、復旧・復興を支えました。

JR貨物では、災害時の対応として従来の鉄道による迂回輸送やトラックによる代替輸送に加え、鉄道貨物の利用運輸事業者と共同で新たに内航船1隻を新造・保有することを発表しました。海路を含めて輸送手段を複線化することで、頻発する自然災害への対策を強化するものです。

鉄道貨物輸送は平常時から人々の生活や産業を支えるとともに、有事にも安全・安心を被災地に届ける社会的に重要な役割を担っています。



東日本大震災後の緊急石油列車

(出典:東北の鉄道震災復興誌編集委員会)

沼津市沼津駅周辺整備部  
推進課

〒410-8601 沼津市御幸町16番1号  
TEL:055-934-4768 FAX:055-934-2310  
MAIL:suishin@city.numazu.lg.jp